

# 福島県 中学校長会 広報

・会長挨拶「令和3年度を振り返って」……	1
・学校教育の今日的課題「自己指導能力の育成」…	2
・令和3年度県中学校長会の歩みと成果……	3
・専門部会活動の概要(行財政部会・研究部会・ 進路指導部会・生徒指導部会・広報部会)…	4～5
・第72回全日中研究協議会静岡大会の概要……	6
・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告…	6
・令和4年度県中学校長会主要行事予定……	7
・令和4年度全日中研究協議会概要……	7
・令和4年度東北地区中研究協議会概要……	7
・令和4年度福島県研究協議会県北(伊達)大会概要…	7
・支会情報と特色ある経営(安達・田村・両沼・相馬)…	8～11
・随想「区切り」……	12



## 令和3年度を振り返って

福島県中学校長会会長 佐藤 浩哉  
(福島市立福島第一中学校)

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、合同開会式を中止とし、総会は第1回理事会を兼ねて行うという今までにない形で開催されましたが、その後、新規感染者数も減り、通常通りの活動ができるようになりました。しかし、令和4年になって、再び会議等の開催方法を悩む状況となりました。そのような状況下でも、本会各部会の活動は今まで以上に多くのアイデアを取り入れ、工夫を加えながら、今年度の活動をほぼ計画通りに実施することができました。県中学校長会事務局、各専門部会の役員の皆様に敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

行財政部会では、小学校長会とともに、調査結果を分析し、要望書を策定し、市町村長、市町村教育委員会教育長、県議会各派や県人事委員会等に要望事項を説明し受け取っていただきました。

研究部会では、各支会の充実した研究に加え、第2期復興・創生期間初年度ということもあり、福島県人として必要な知識を身に付け、理解を深めるために取り組まれた、福島市立飯野中学校の放射線教育の実践も研究集録に掲載しました。また、来年度からの研究の手引きも作成されました。

進路指導部会では、高等学校入学者選抜方法の改善のための調査と関係会議への出席、また、関係機関との連携に努めるとともに、進路状況調査の実施や「中学校生活と進路」の編集も行いました。

生徒指導部会では、各学校で活用できる、本県の生徒の実態を浮き彫りにした、いじめ、不登校、インターネットに関する調査結果等を共有するとともに、小学校長会と協力して充実した研修機会を得ることもできました。また、生徒手帳の編集・確認作業を行いました。

広報部会では、第166号と第167号の会報を発行し、本会の事業内容や活動報告を行いました。また、ホームページの管理を行いました。

東北地区中学校長会研究協議会岩手大会は、生徒指導についての研究報告を北会津支会会津若松市立湊中学校の伊達東校長先生が、また、新型コ

ロナ禍における学校経営と今後に向けての取組報告として研究部会長である福島市立渡利中学校嶋原俊洋校長先生が誌上発表されました。

全日中校長会研究協議会静岡大会においては、オンラインにより第6分科会で発表された伊達東校長先生、司会を務めた会津若松市立第四中学校の藤田信一校長先生、さらに全体協議会で議長団の一員を務めた事務局長福島市立福島第三中学校渡部光毅校長先生の各校長先生には、特段のご活躍をいただきました。さらには、オンラインで参加いただいた各支会代表の校長先生方、大変お世話になりました。

他県の校長先生方と直接お会いして、交流を深める機会がなかったことは非常に残念でしたが、コロナ禍の中でも、各県の教育活動が止まらないように工夫して実践しようとする意欲と強い意志に触れることができたことは、大きな収穫となりました。

県内でも、しばらくの間、お話を直接うかがうことができない状況であったことから、支会での活動に負担をかけてしまっているのではないかと心配することもありました。校長先生方から少しでもお話を聞くことができればと参集型の理事会を開催することに努めました。各支会の状況をお伝えいただき、生徒と教職員の健康を守り、学びを止めないために、それぞれの状況の中、日々、ぎりぎりの判断をしながら、学校経営にひたむきに取り組む多くの仲間がいることを知ることは、お互いにとって大きな勇気となりました。そして、校長の一言がどんなに生徒や教職員にとって心の支えになるかということも再認識することができました。校長は困難な状況であればあるほど、思いを言葉にして明確な内容・方法を示し、リーダーシップを発揮しなければならないと今更のように思いました。

最後になりますが、本会を支えていただいている副会長、理事、支会長の皆様をはじめ会員の皆様、各部会長、幹事、事務局員の皆様この一年間のご協力に対して重ねて感謝申し上げますとともに、本年度末をもってご退職される校長先生方のご功績に心からの敬意を表します。誠にありがとうございました。

## 学校教育の今日的課題



## —自己指導能力の育成—

福島県中学校長会副会長 目黒 満  
(福島市立信陵中学校)

学校教育は、集団での生活や活動を基本とするものであり、その中での生徒相互の人間関係の在り方は生徒の人格の健全な育成に大きく影響を与えています。生徒は、学校生活を送る中で、他者と協調・協働しながら好ましい人間関係を構築し、自分らしさを発揮することで自己実現を図る経験を積んでいます。そうした中で、必要不可欠な力が自己指導能力です。学校という集団生活での経験を通して、自己指導能力を育むことが将来の社会的自立に着実につながるものと考えます。

本校では、令和2年度から不登校対応・解消に向けたSSR（スペシャル・サポート・ルーム）を設置し、加配教員が指導に取り組んでいます。1年目からその取組は効果を発揮し、昨年度末の不登校生徒数は前年度比で半減しました。この流れで、今年度もさらなる減少をめざし、この1年間取り組んできました。現在の本校の不登校生徒数は、残念ながら前年度比で横ばいです。しかし、横ばいとは言いつつも、連日SSRは満室状態です。1学期中に、あるいは2学期前半までに欠席日数が30日を超えてしまったいわゆる「不登校」にカウントされている生徒の多くが、今は休むことなく、あるいは週に1日程度の休みを入れながら、自分の生活リズムと計画で、主体的にSSRに登校しています。生徒の中には、週2回の登校と週1回のリモート授業を習慣にしている生徒もいます。どの生徒も、SSR担任や日替わりで勤務している生徒支援教員、学級担任等の支援のもと、個別の自主的な学習に積極的に取り組んでいます。

SSRでは、自分の時間割を自分で決めますが、本校では、特別支援学級との合同での保健体育、栽培や調理などの集団での体験的な学習をSSRの時間割に組み入れて実施しています。その学習活動に対しても、多くのSSRの生徒が安心感を持って笑顔で参加しています。

生徒たちは日々、自分の気持ちや家庭環境等と折り合いをつけながら、今、自分が出せる力を精一杯振り絞り登校し、学習しています。同じよう

な経験を持つSSRのクラスメートと笑顔で励まし合いながら、「欠席期間中の学習の遅れを取り戻そう。」「進路実現に必要な基礎学力を身につけよう。」という思いや焦りの中で、自分自身をモニタリングし、コントロールしながらSSRでの生活を送っています。生徒たちは、SSRでの学習・生活を通して自己指導能力を育み、将来の自立につながる資質能力や必要な知識を身につけています。

これまで、寺子屋を起源とする日本の学校教育の歴史の中では、学級単位での一斉指導・一斉授業が絶対的な基盤でした。しかし、社会や子どもの変化・多様化により、この歴史ある学校システムだけでは、全ての生徒に将来の自立につながる自己指導能力が育めるのかどうか、検証すべき時が来ているように思います。令和2年度の不登校児童生徒数は196,127人、この5年間の推移を見ると、中学校での不登校生徒の割合は、平成27年度の2.8%から、令和2年度は4.1%と残念ながら確実に増加しています。

2020年代を通じて実現すべき令和の日本型学校教育を実現するためのキーワードとして、個別最適な学び、協働的な学びがあります。こうした質の高い学びの実現のためには、新たな教育理念の一層の理解と共有、働き方改革の推進、GIGAスクールの機能的運用、学習指導要領の着実な実施等の改革を進めていく必要があります。しかし、改革を推進し、令和の日本型学校としての実効ある経営をしていくためには、そのためのヒト・モノ・カネが必要です。SSRの経営・運営だけでも加配教員や生徒支援教員が必要不可欠であることから、理念だけでなく、充実した経営に必要な人材や資産を校長が持ち、新たな取組のための時間を生み出して行く必要があると痛感しています。

全ての生徒の自己指導能力の育成に向けて、県内の校長が一丸となり、本当の意味で「必要な改革を躊躇なく進める」取組を力強く進めていく必要があると強く思います。

## 令和3年度

## 「中学校長会の歩みと成果」



コロナ渦に翻弄された令和2年度を終えて、「今年こそは」という希望のもとにスタートした令和3年度でしたが、昨年度同様に各学校では、終息にはいたらず、

度重なる教育課程の変更を行いながら、学びの保証と安心・安全の両面に留意され教育活動を進められてきたことと存じます。

今年度の福島県中学校長会の活動も感染拡大の懸念から、4月12日の事務局会において検討し、4月21日の小・中合同開会式は中止としましたが、総会を兼ねた第1回理事会を開催し、佐藤浩哉会長はじめ4名の副会長などの組織が決定されました。

その後の活動については、感染状況を見極めながら可能な限り従来どおりに開催する方針で進めて参りましたが、県内の感染者数の増加に伴い、5月26日に計画していた第1回の生徒指導部会長会と28日の進路指導部会長会を书面開催としました。また、5月20・21日に東京都で開催が予定されていた全日中理事会・総会・文科省行政説明等も、昨年度と同様にWEB会議となりました。

6月も感染状況を踏まえながら各専門部等の会を行ってきました。25日に計画していた第1回小・中合同理事会と第2回中学校理事会は開催できましたが、県教育庁との懇談会は中止としました。東北地区中関係では、盛岡市で開催予定であった4日の第1回副会長会がWEB会議に変更となり、24日の東北地区中理事会はWEB開催、25日の研究協議会岩手大会は书面開催となりました。

7月は計画どおり会が進行しました。1日には退職校長会との懇談会が行われ、中学校の抱える課題に対して、先輩方から貴重な助言をいただきました。また、27日には県教育庁との要望・懇談会事前打合会を実施し、主に要望活動の項目や記載内容について確認していただきました。

8月に入ると全国的に感染が急拡大し、本県では、まん延防止重点措置が8日からいわき市に、その後は郡山市や福島市にも適用される事態となりました。これを受けて、3日の関係教育団体と

福島県中学校長会事務局長 渡部 光毅  
(福島市立福島第三中学校)

の懇談会及び18日の第2回合同理事会、第3回中学校理事会を书面開催とし、県教育庁関係者との懇談会・懇親会をやむを得ず中止としました。

このような状況の中、要望活動の実施も危ぶまれましたが、20日の事前打合会を経て、25日に県庁、自治会館において、県議会各派、県人事委員会、県市長会、県町村会を訪問し、要望活動を行うことができました。コロナ禍を考慮し、参加者を削減しての要望活動となりましたが、各団体とも真摯に要望内容を受け止めていただきました。

9月に入り、市町村によって状況は異なるものの、30日までのまん延防止対策重点措置が前倒しで解除されるなど、コロナの沈静化が見られるようになりました。それに伴い校長会の活動を計画どおり進めましたが、9日の生徒指導部会長会議がまん延防止対策期間中であったため幹事会で実施しました。

10月以降は、全国的に感染者数が減少傾向となり県内の活動は計画どおり行われましたが、20日～22日の全日中研究協議会静岡大会は全てWEB会議となりました。また、11月2日の東北地区中臨時理事会で、次年度の東北地区中宮城大会が〈WEB活用による縮小大会〉となることが示され、12月2日の第4回理事会で本県からの全員参加も含めて承認されました。

このように、今年度の活動もコロナ禍により制約を受けました。特に8月以降は、まん延防止対策重点措置や非常事態宣言が発令されるなど対応に苦慮する場面が多く生じましたが、事務局を中心に多くの校長先生方との連携により、調査分析や要望活動、研究集録の作成をはじめ、各部会での幹事会、部会長会議、理事会をほぼ予定どおり実施することができました。また、「中学校生活と進路」や生徒手帳の編集作業も行われ、今年度の活動を推進することができました。

困難な状況下での各種アンケートへの回答や報告書の作成にご協力いただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、次年度も課題解決のために多くの情報を共有することができますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 専門部会活動の概要

### ● 行財政部会 ●

県小・中校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題解決のために調査研究や要望活動を行い、組織的・継続的な対策活動を推進しました。

#### 1 活動の重点

- 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上昇
- 当面する重要課題の調査研究と課題解決

#### 2 調査研究活動

- (1) 令和3年度「教職員人事の反省」
- (2) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (3) 調査Ⅲ：教育施策の実施状況調査
- (4) 特別調査：大震災・原子力災害や感染症の影響に係る調査

#### 3 要望活動

佐藤浩哉県中学校長会長、佐藤秀美県小学校長会長を中心に要望団を結成し、8月25日に要望活動を行いました。

- (1) 面談（要望内容説明）
  - ① 福島県人事委員会
  - ② 県議会議員政党等
- (2) 要望書届け
  - ① 福島県市長会、町村長会
  - ② 福島県町村議会議長会、市議会議長会
  - ③ 市町村教育委員会、都市教育長会、町村教育長会の代表機関等
- (3) 主な要望事項
  - ① 復興加配はじめ教職員の加配について
  - ② SC、SSWの拡充・育成について
  - ③ 特別支援教育の指導の充実について
  - ④ 多忙化解消に向けた取組の推進について

#### 4 教育懇談等

関係機関と懇談し現状説明等を行いました。

- (1) 福島県公立学校退職校長会（7月1日実施）
- (2) 福島県教育庁関係者（8月18日は中止）  
（行財政部会長 福地 淳一）

### ● 研究部会 ●

#### 1 共通理解に基づく共同研究の推進

研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を指標とした8小主題について、「研究の手引き」を活用しながら、各支会・各学校の実態に即して研究を推進しました。

第49回福島県中学校長会研究協議会を各支会

ごとに開催し、担当小主題についての発表と協議を行い、研究の深化を図るとともに、その成果を共有しました。

#### 2 研究集録の編集及び刊行

研究主題に基づく調査研究の充実、資料や情報の提供を目的とし、各支会における研究の成果を収めた「研究集録」を刊行し、全会員に配付する中でその成果を共有することができました。

#### 3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会及び第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会は、紙面開催やオンラインでの開催となりましたが、大会誌の発行・配付により、情報収集は例年通り行うことができました。

また、全日本中学校長会研究協議会静岡大会では、第6分科会において北会津支会が生徒指導に関する研究の成果についての発表を行い、有意義な研究協議とすることができました。

#### 4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の発信

震災後11年を経過した福島の実状を記録し累積するために、研究集録の中に、「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を継続して掲載するとともに、福島県の課題でもある「放射線教育の実状」についても掲載し、全会員で共有しました。  
（研究部会長 鳴原 俊洋）

### ● 進路指導部会 ●

#### 1 「社会を生き抜く力」をはぐくむキャリア教育の視点にたった進路指導の充実

各支会においては、キャリア教育の視点から、校長のリーダーシップのもと、地域の実情に即した進路指導を推進しました。

また、部会長会で協議・情報交換を行い進路指導の体制等の改善・充実を図りました。

#### 2 高等学校入学者選抜方法改善への対応と連携

「進路指導に関する調査」の集計結果をもとに、県立高等学校入学者選抜事務調整会議で入学者選抜の方法・内容等の改善・見直しについて提言しました。特に、新型コロナウイルス感染対策としての選抜実施の在り方に関して意見を述べました。その結果、昨年度に引き続き、感染者等の受験機会の確保、特色面接を一般面接実施のみならずとできることなどの改善が図られました。

また、2年ぶりに「調査書記入用大会名一覧表」の改訂を行い、県中学校長会のホームページ

ジに掲載するとともに、中学校長会、高等学校長協会と連携を図りながら、各中・高等学校に周知しました。

### 3 「中学生活と進路」〈福島県版〉の編集

新学習指導要領の趣旨及び副読本「中学生活と進路」に関する調査結果を踏まえて編集にあたりました。全国版と県版の内容の整合性を図りながら、最新の資料を用い生徒の実態や本県の状況に応じた内容となるよう改善しました。

### 4 進路指導に関する諸調査の実施

高等学校の統廃合に留意しながら、全県一斉の「進路動向調査」を2回実施し、ホームページに掲載しました。2回目の調査では、県立高等学校前期入試を、特色選抜、一般選抜、連携型選抜に区分して集計し、動向の把握に役立つ資料を提供できました。

また、令和3年度末実施の「進路指導に関する調査」の調査項目等の見直しを図りました。

(進路指導部会長 阿部 孝寿)

## ● 生徒指導部会 ●

### 1 自己指導能力の育成と規範意識の向上

コロナ禍による緊急事態が継続する中、校長がリーダーシップを発揮し、行事等の創意工夫を図り、自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成する教育活動が展開されました。さらに、生徒指導の機能を生かして、ネットトラブルやコロナ感染者への中傷等、新たな問題に対し、規範意識を高める指導を実践しました。

### 2 生徒指導上の諸問題、その解決や未然防止

6月に「生徒指導上の諸問題に関する調査」を実施しました。過去5年間の経年変化に着目し、学校の対応や生徒の実態変化について数値化を図り、分析・考察することができました。

不登校は、1学級あたりの人数が増加傾向にあり、引き続きSCやSSW、関係機関との連携が望まれます。いじめは、コロナによる臨時休業もあり、総数は減少したものの、初期段階で積極的に認知しようとする姿勢を継続する必要があります。虐待は、約4分の1の学校から報告されており、どの学校でも起こる問題としてとらえる必要があります。反社会的行為は、粗暴行為が減少したものの、SNSを介した交友関係の拡大により家出、深夜徘徊などの不良行為も心配されます。インターネット利用は、保護者の危機意識の温度差が大きく、ネット利用の環境管理が徹底できない家庭は、打開策が見いだせない状況にあります。生徒のスマホ所持率やネット使用時間は確実に増加していま

す。ネット依存に関する相談機関や医療機関の整備、社会全体で構築する安全なネット環境等、子どもを守る対策を講じることは喫緊の課題です。

### 3 小学校及び高等学校、関係機関等との連携

小・中学校、高等学校の連携は年々強化され、インターネットの利用等、今日的な課題に関して関係機関の協力を得ながら、地域と一体となった指導・協力体制が構築されています。

### 4 生徒手帳の編集、刊行

令和4年版「生徒手帳」は、編集委員を中心として編集、刊行することができました。

(生徒指導部会長 中村 徹)

## ● 広報部会 ●

本年度も、「福島県中学校長会広報」を2回発行しました。ホームページの維持・管理とともに、要望活動等を記録し、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ情報などを提供しました。

### 【広報の主な編集内容】

#### 1 第166号(7月10日発行)

- 会長就任の挨拶 佐藤浩哉会長
- 県中学校長会総会の概要及び組織
- 学校教育の今日的課題 星健一副会長
- 県中学校長会の活動と運営
- 各専門部活動の概要
- 第72回全日中WEB総会の概要
- 支会情報と特色ある経営  
伊達支会・月館学園中学校  
郡山支会・西田学園中学校  
東西しらかわ・矢吹中学校  
北会津支会・川東学園中学校
- 新会員紹介及び新会員の声
- 随想 長嶺吉浩副会長

#### 2 第167号(3月1日発行)

- 令和3年度を振り返って 佐藤浩哉会長
- 学校教育の今日的課題 目黒満副会長
- 令和3年度県中学校長会の歩みと成果
- 各専門部活動の概要
- 県小中学校合同理事会・中学校理事会報告
- 全日中静岡大会の報告
- 令和4年度中学校長会主要行事予定
- 令和4年度東北地区中研究協議会概要
- 支会情報と特色ある経営  
安達支会・大玉中学校  
田村支会・都路中学校  
両沼支会・会津柳津学園中学校  
相馬市会・中村第一中学校
- 随想 原真児副会長

(広報部会長 佐藤 成紀)

## 第72回全日中研究協議会 静岡大会の概要

全日中研究協議会が、10月20日(水)～22日(金)の3日間、静岡県浜松市を基地にWEB開催となりました。本県からは、佐藤浩哉会長以下、事務局と各支会からの代表18名が参加しました。

### <主な日程と内容等>

第1日 10月20日(水)

全日中理事会 佐藤浩哉会長参加  
全体協議会運営員会 渡部光毅事務局長参加

第2日 10月21日(木)

開会式・文部科学省説明・全体協議会・分科会

第3日 10月22日(金)

アトラクション・全体会・記念講演・閉会式

- 全日中会長・実行委員長・来賓あいさつより
  - ・ コロナ禍にあっても「学びを止めない」ことが重要であり、校長が連携・協力し工夫を重ねながら教育活動を進める必要がある。
  - ・ 校長は学校の経営責任者として、確かな教育理念と使命感をもち、リーダーシップを大いに発揮しなければならない。
- 文部科学省説明より(審議官 茂里 毅氏)  
当面する初等中等教育上の課題について、8つの視点から説明がありました。
- 全体協議会より

全体協議会は全日中と東北地区から2つの提案があり、本県の渡部光毅事務局長が東北地区議長団として議事進行を務めました。

報告1 「次世代の学校教育の実現」について、全日本中学校長会総務部長 平井邦明校長から報告がありました。まとめとして述べた「成果を上げる者は、新しい活動を始める前に、必ず古い活動を捨てる。」という言葉が印象に残りました。

報告2 「震災の教訓を伝える防災学習」について、宮城県気仙沼市立鹿折中学校 菅原定志校長から報告がありました。中学生が震災の教訓を次世代へ伝える活動を重視し、中学生語り部ガイドの育成や、小学校高学年児童を対象に伝承活動を行うという取組は、大変参考になるものでした。

- 分科会(第1～8分科会)

東北地区は第6分科会を担当し、宮城県と福島県が発表しました。本県は、会津若松市立湊中学校の伊達 東校長が提案者として発表を行い、会津若松市立第四中学校 藤田信一校長が司会者を務めました。



なお、各部会とも、ブレイクアウトルームというオンラインの機能を使い、小グループでの意見交換が行われました。

- アトラクション

オーディションによって選ばれた団員で構成される浜松市中学校選抜吹奏楽団による素晴らしい演奏が披露されました。

しい演奏が披露されました。

- 全体会

全体会では大会宣言についての説明・提案がなされ、全会一致で大会宣言が決議されました。

- 記念講演「学習、成長—未来の脳を考える」  
地元静岡県出身の池谷裕二氏(東京大学薬学部教授)による講演が行われました。脳は消去法で成長する。脳は入力よりも出力を重視する。再読より思い出させる訓練が有効など、神経生理学の視点から学校教育に生かせる興味深い話を聞くことができました。

### <終わりに>

本大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初めてのオンライン大会となりました。開会式で一部音声が届かない等のトラブルもありましたが、事務局の迅速な対応により改善が図られ、内容的にも充実した大会となりました。令和4年度は、北海道(札幌)大会となります。

## ●小・中学校合同理事会報告●

年間を通して計4回の合同理事会を以下の日程・会場・内容で開催しました。

第1回 6月11日(金) 福島テルサ

- ・ 令和3年度の組織
- ・ 行財政部の諸調査
- ・ 生徒指導上の小・中連携強化への提案
- ・ 令和3年度人事の反省
- ・ 令和3年度要望活動、教育懇談の協議 等

第2回 8月18日(水) 書面開催

- ・ 行財政部諸調査報告
- ・ 各種団体との教育懇談会報告
- ・ 要望活動、教育懇談会、令和4年度小・中合同開会式の開催日程の協議 等

第3回 12月2日(水) パルセいいざか

- ・ 令和4年度行財政調査
- ・ 要望活動の実施報告
- ・ 合同開会式、次年度行事予定の協議 等

第4回 2月21日(月) グリーンパレス(WEB開催)

- ・ 退職役員感謝状贈呈式
- ・ 次年度の合同開会式、行事予定の協議 等

本年度の合同理事会においても新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第2回においては、書面開催、第3回においては、小学校がWEBによる、中学校が参集によるハイブリッド型の理事会を開催しましたが、昨年度から中止や書面開催による実施もありますが、移動せず、時間を短縮しての効率性と、顔を合わせて、率直な意見を出し合う必要性も改めて感じさせられました。コロナ禍であるがゆえに実施方法に利点・欠点もあることから、検証しながら、今後の在り方について考えていきたいと思っております。

また、県小・中校長会においては諸調査や要望活動、教育懇談会、その他さまざまな提案等を積極的に行っていますが、学校、市町村教育委員会、県教育委員会と連携を密に図りながら福島県の子どものために活動していきたいと考えています。

## ●中学校理事会報告●

年間を通して予定していた計5回の理事会を以下の日程・会場で開催しました。

第1回 4月21日(水) パルセいいざか

- 第2回 6月11日(金) 福島テルサ
  - 第3回 8月18日(水) 書面開催
  - 第4回 12月2日(木) パルセいいざか
  - 第5回 2月21日(月) グリーンパレス(WEB開催)
- 今年度の理事会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第3回を書面開催、第5回をWEB開催としましたが、他は感染防止対策をした上で、参集による開催としました。

理事会では、組織運営や各部の年間活動計画と進捗状況の報告、予算・決算、東北・全日中研究協議会への参加や役割分担、県研究協議会開催に伴う協議に加え、新型コロナウイルス感染症の対応について活発な意見交換を行いました。修学旅行や文化祭、合唱コンクール等の学校行事の在り方や中体連大会の参加方法、タブレットを導入した学習支援など、今後学校に求められる内容について、次年度以降も見通した改善策等について協議し、深めました。

### 令和4年度県中学校長会主要行事予定

[県、東北地区中、全日中関係]

月	日	県関係	東北地区中・全日中関係
4	11 20	合同事務局会① 総会・理事会①	
5	11 13 17 18 25 27 31	行財政部合同部会長会① 研究部会長会①  進路指導部会長会① 生徒指導部会長会① 合同事務局会②	全日中理事会① 全日中総会(～19)
6	3 10 23 24	合同理事会①、理事会②	東北地区中副会長会①  東北地区中理事会① 東北地区中宮城大会
7	5	行財政部合同代表部会長会① ・広報第168号発行	
8	2 17	合同事務局会③ 合同理事会②、理事会③ 要望活動	
10	7 19 20 25	福島県研究協議会県北(伊達)大会 進路指導部会長会②	全日中理事会② 全日中北海道大会(～21)
11	15 17 21	研究部会長会② 生徒指導部合同部会長会① 合同事務局会④	
12	1	合同理事会③、理事会④	
1	19 20 25 27 31	研究部代表部会長会① 進路指導部代表部会長会① 生徒指導部代表部会長会①	全日中理事会③ 東北地区副会長②、理事会②
2	6 8 21	合同事務局会⑤ 行財政部合同部会長会② 合同理事会④、理事会⑤(～22)	
3	16	・広報169号発行 会計監査	

## 令和4年度全日中研究協議会概要

第73回全日本中学校長会研究協議会北海道大会が以下のように開催される予定です。

- 1 期日
  - ◇ 令和4年10月19日(水)～21日(金)
- 2 会場
  - ◇ 札幌コンベンションセンター等
- 3 研究協議会主題
 

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

- 4 主な内容
  - ◇ 第1日：10月19日(水)
    - ・ 全日中常任理事会、理事会
    - ・ 全体協議会運営委員会、分科会運営委員会
  - ◇ 第2日：10月20日(木)
    - ・ 開会式、文科省説明
    - ・ 全体協議会、研究協議(8分科会)
  - ◇ 第3日：10月21日(金)
    - ・ 全体会、記念講演、閉会式
    - ※ 講演者 山口 真由氏  
信州大学特任教授

## 令和4年度東北地区中研究協議会概要

第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会が以下のように開催される予定です。

- 1 期日
  - ◇ 令和4年6月24日(金)
- 2 会場
  - ◇ 仙台市TKPガーデンシティプレミアム仙台西口
- 3 研究協議会主題
 

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
- 4 主な内容
  - ◇ 第1日：6月24日(金)
    - ・ 開会行事
    - ・ 記念講演
    - ・ 研究協議会(3分科会)
    - ・ 閉会行事
    - ※ 講演者 六華亭 遊花氏  
落語家(東北弁落語)  
岩手県遠野市出身、宮城県在住、2018年文化庁芸術祭大衆演芸部門において優秀賞受賞
- 5 その他
 

WEB活用による縮小大会とし、コロナ禍対応及び今後の在り方を探り、参集とオンラインによるハイブリッド型の開催を計画

## 令和4年度福島県研究協議会県北(伊達)大会概要

- 1 期日
  - ◇ 令和4年10月7日(金)
- 2 会場(予定)
  - ◇ 伊達市立梁川中学校
- 3 研究協議会主題
 

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」
- 4 主な内容
  - ◇ 第1日：10月7日(金)
    - ・ 開会式
    - ・ 講演会
    - ・ 研究協議会(8分科会)
    - ・ 閉会行事
    - ※ 講演者(未定)
- 5 その他
 

コロナ禍対応として、参集とオンラインによるハイブリッド型の開催を計画

# 支会情報と特色ある経営

安 達

## 安達支会の活動



安達支会長 高橋 一彦  
(二本松市立小浜中学校)

安達支会は、二本松市、本宮市、大玉村の11校の中学校長で構成されています。今年度は、新会員6名、うち2名が新任という状況

での組織となりました。長年、安達支会を牽引して来た先輩校長先生方が退職され、何をやるにも迷うばかりのスタートでした。しかしながら、先輩方から受け継いできた「安達は一つ」というスローガンの下、会員相互の連携を図り、さらに小学校長会との連携も進め、地域の実情に応じた特色ある学校経営の充実に取り組んでいます。

### 1 定例校長会の開催（含む研修会）

各学校の経営上の成果や課題、県理事会や各専門部の活動報告などを踏まえて、安達地区内の中学校全体のこととして情報交換や改善策の協議を行い、各校の経営に生かしています。今年度は特にコロナ禍における学校経営について、安達支会として共通認識を持って進める場となりました。

### 2 退職校長会との連携

例年、退職校長会の皆様と教育課題についてグループ協議を行ったり、懇親会を行っています。昨年度は中止でしたが、今年度は、コロナ感染防止に配慮しながら実施し、学校経営について考えを深める良い研修の場となりました。

### 3 安達地区小中学校長協議会との連携

地区内の課題やコロナ対応について、役員会において情報交換し共通理解を図りながら、各学校が適切な対応が出来るよう進めてきました。

### 4 安達地区中学校高等学校協議会の開催

例年、地区内の4つの高等学校長と全中学校長で情報交換の会を実施していましたが、昨年度と今年度はコロナ禍のため実施出来ませんでした。

今年度もコロナ対応に振り回された年度でした。来年度はぜひ創意工夫にあふれた学校経営がそれぞれの学校のできるよう状況の改善を切に願っています。

## 《学校紹介》

## 地域と共に歩む学校づくり

大玉村立大玉中学校

本校がある大玉村は、コミュニティ・スクール制度を先駆けて導入し、村内外の人材によって学校を支えるコミュニティづくりが整備され、幼・小・中の一貫性のある体制の下、充実した教育が展開されています。

コロナ禍とは言え、子どもたちの豊かな学びを保障すべく、本校でも教職員の創意工夫ある教育活動が展開されています。感染防止の観点から見直しや変更が余儀なくされつつも、心の交流を通して豊かな人間性・社会性を育ていけるよう積極的に地域人材を活用しています。

これを可能にしているのが、教育委員会から週一で派遣されている学習支援コーディネーターの存在であり、各教科や各学年等のニーズに応じて地域人材の確保に努めていただいています。

たとえば、毎年恒例の職場体験活動（2学年）は、コロナ禍により各事業所の生徒受け入れが難しい状況であるため、その代替えとして、様々な職種の方から仕事の内容や働く意義などを学ぶ機会を設けようと、学習支援コーディネーターに要請しました。様々なジャンルで活躍されている方々からお話しをいただいたり、就職活動の際に行われる面接を疑似体験させていただいたり、充実した教育活動を展開することができました。

このように、地域に支えられ恵まれた環境にある本校では、生徒会活動や総合的な学習の時間を中心に、一人暮らしの高齢者に暑中お見舞いのハガキを送ったり、村役場や福祉施設に花を植えたプランターを贈呈したりと、新しい取組を始めました。地域との互恵関係を築くための「地域貢献」を通して、「地域と共に歩む学校づくり」に向けて努めているところです。



花畑運動では、村役場や福祉施設などにも花を植えたプランターを贈呈

※ねらいは

“相互の互恵的関係”を築くための地域貢献

(校長 安田 浩明)

## 田村

## 田村支会の活動



田村支会長 堂山 昭夫  
(三春町立三春中学校)

田村支会は、田村市6校、三春町2校、小野町1校の計9校で組織されています。生徒数の減少により様々な面で活動に支障が生じており、各学校では活気を失うことがないように様々な面で工夫しています。また、18校で組織する小学校長会と綿密に連携して活動しています。

## 1 新型コロナウイルス感染症への対応

感染状況の共有、教育課程や行事変更に伴う調整、中体連等各種大会開催に向けた共通理解など感染症対策と教育の両立を目指してきました。

## 2 校長研修会

## (1) 全体研修会

学校経営に係る校長の資質向上を目的に、小・中学校合同による全体研修会を実施しています。

## (2) 小・中学校別研修会

学習指導、生徒指導、進路指導等について各学校の実践や成果、課題を共有し、自校の改善に生かす研修を実施しています。

## (3) 新任校長研修会

年2回、会長、副会長より新任校長へ校長の心構え、学校経営上の悩みや課題等に対する助言、教職員人事の進め方等について研修しています。

## 3 学校課題への取組

## (1) 教員の働き方改革への対応

校務支援ソフトの活用について、業務の効率化の視点から研修を実施しました。

## (2) GIGAスクール構想への対応

タブレット、電子黒板等ICT機器の活用による新たな学びのスタイルについて研修の機会を設定しています。

## 4 退職校長との懇談会

毎年実施してきた退職校長との懇談会は、2年続けて中止となりました。先輩方の豊かな経験に基づいた示唆をいただく貴重な機会であり、次年度は実施できればよいと考えています。

## 《学校紹介》

## 「都路志塾」志を立てる・育む・磨く

## 田村市立都路中学校

都路中学校は、全校生徒26名の学校です。田村支会で唯一復興12市町村の中に含まれている学校でもあります。

都路志塾はキャリア教育として、①自ら自分のキャリアを切り拓く力、②地域のモノ、ヒトとつながる力、③生涯にわたって学び続ける力等を育むために、複数の方から職業講話を伺った後、グループでプレゼンテーションを作成し、感じたことを1日で発表し合うのが特徴です。

今年度は、全校縦割りグループの意見交流を活発にするため、全校道徳、全校学活を経て、自分の意見を遠慮なく出し合えるように工夫しました。9月15日は、元小学校の校長先生で退職後、大学院に進み、博士となられた方、長く会社勤めの後、都路の施設で起業された方、福島復興のために他県から都路に移住され林業を営んでいる方等、3名の方の講話を拝聴しました。

グループ発表では、コロナ禍中だからこそ「自分と向き合う大切さ」、都路ならではの「森と人間の共生」等、深い気付きが見られ、講師の先生方も感心されていました。

来年度は「都路志塾」を核として、地域体験学習や、コミュニティスクールとの関連を図っていきたく考えています。「小さくても魅力ある学校づくり」「園・小・中を通して育てたい力」について学校・家庭・地域で現在協議しています。



(校長 榊原 康夫)

## 両 沼

## 両沼支会の活動



両沼支会長 高橋 由江  
(会津美里町立新鶴中学校)

両沼支会は、河沼郡の会津坂下町、湯川村、柳津町の3町村3校、大沼郡の会津美里町、三島町、金山町、昭和村の4町村6校、計7町村9校で組織し活動しています。今年度は、1名の転入会員と3名の新会員をお迎えし、約半数の会員が異動という中で、令和3年度がスタートしました。7町村により学校規模も環境も施策も違いますが、「生徒一人ひとりの健やかな成長」という目標を達成すべく、会員相互が一丸となって、支会運営を行っております。

以下、両沼支会の子な活動を紹介いたします。

## 1 両沼小中学校長会及び研修会（合計5回）

小中連携を密にしながら、総会及び年3回の定例会と年2回の研修会を計画し、それぞれ1回ずつ中止になりました。しかし、開催時は、教育の今日的課題や学校経営に関する情報交換などが活発に行われ、非常に有意義な会になりました。

## 2 退職・現職校長会教育懇談会

令和2年度に続き、実施できませんでした。豊かな経験と深い人生訓をおもちの諸先輩の皆様方から、御指導頂ける貴重な機会を持つことができず残念でしたが、次年度は実施できればと思います。

## 3 全会津小中学校長連絡会（2回）

総会は紙面開催になりましたが、連絡会を2回実施し、令和5年度に開催される東北中学校長会研究大会会津大会の持ち方などについて協議しました。全会津会員全体で準備を進めてまいりたいと思います。

## 4 その他

中教研では、隣接する耶麻支会との合同開催、中体連大会では支部・地区合同開催及び新人戦大会の廃止など、現状に沿って、実り多い活動になるよう取り組んできました。

現在、働き方改革、一人一台端末の活用、感染症対策を講じながらの教育活動の充実など課題が多岐に渡っていますが、校長会としてより一層、一致団結して取り組んでまいりたいと思います。

## 《学校紹介》

## 地域と連携した学校づくり

## 柳津町立会津柳津学園中学校

本校は、柳津中と西山中が統合してできた、開校4年目の新しい学校です。校歌は、両校の生徒が考えた詩をつないで作詞されました。応援歌は、元バレーボール日本代表の大林素子さん作詞によるもので、本校の自慢の一つです。

柳津町は人口3000人程の規模で、高齢化率が高い町です。将来を担う人材の育成が地域の強い願いです。今年度は、そのような町の実態から、地域との連携を図った教育を充実するため、総合的な学習の時間の内容を見直し、地域学習の内容を体系化しました。

第1学年は、「現在を見つめる」をテーマに、地域の産業の現状や自分の関わりを探るために「町探検」を実施し、他市との比較も行いました。

第2学年は、「生き方を見つめる」をテーマに、地域の職業の特徴や自分との関わりを理解するために、町内の事業所だけで2日間の「職業体験学習」を実施しました。

第3学年は「未来（将来）を見つめる」をテーマに、町づくりや地域活性化の取組に関わる人々の思いや願い、町づくりと自分の関わりを理解するため、「中学生議会」での町への政策提言を計画しました。残念ながら、今年度は新型コロナウイルスへの感染拡大防止の観点から、中学生議会が中止になりましたので、代わりに本校文化祭で保護者に向けて発表しました。



【町探検】



【職業体験学習】



【文化祭での発表】

次年度から本校は、町内の小学校と共にコミュニティ・スクールとなります。地域住民や保護者、小学校との連携が一層求められますが、地域で学習できることも広がると考えられます。内容をより充実させながら、さらに地域と連携した学校づくりを進めていきたいと考えます。

(校長 小関 英紀)

## 相馬

## 相馬支会の活動



相馬支会長 星 健一  
(相馬市立中村第二中学校)

相馬支会は、新地町1校、相馬市4校、南相馬市6校、飯館村1校の3市町村12校で組織されています。東日本大震災及び原子力災害から11年目を迎えようとしているところですが、各市町村の教育施策を踏まえながら、先輩から受け継いできた「相双は1つ」というスローガンの下、双葉支会与連携を図りつつ、さらなる復興に向けて各校が特色ある学校経営の充実に取り組んでいます。

主な活動は、中学校独自で行う2回の研修会、相馬地方小中学校長協議会・中学校部会を2回、相双中・高等学校長連絡協議会を1回開催して、情報交換や各校の課題を共有するとともに、課題解決に向けて意見交換をし、地域の実情に応じた実践を展開しています。

今年度、中学校の新学習指導要領全面实施にあたり、指導と評価の一体化に向けた資料の情報共有、そして道徳科で活用できるポートフォリオタイプの記録用紙の情報提供など、現場で役に立つ情報を皆で共有することからスタートしました。

また、喫緊の課題である不祥事防止に向けて、ネットニュースや新聞記事からポイントを押さえた資料を相馬支会内の各校に提供して、同一歩調で不祥事防止の取組も推進してきました。

コロナ禍ではありますが、支会内の各校では感染対策を講じながら、修学旅行や文化祭等を工夫して開催できたことは何より喜ばしいことです。

ただし、職場体験学習については事業所等での受け入れが難しいことから、支会内では「職業人講話」として、学区内の様々な職業の方々に来校いただき、体育館に用意したブースを生徒が事前に3つ選択し、学習するスタイルを取った学校がありました。

東日本大震災及び原子力災害以降、生徒数の減少という課題がありますが、相互に知恵を出し合うとともに研修を重ね、対話・協働して相馬地方の未来を担う子どもたちの育成に邁進していきます。

## 《学校紹介》

## 「RST」による読解力向上

## 相馬市立中村第一中学校

本校は中村城趾近くにある全校生425名の学校で、「探究 協働 創意」の教育目標のもと、教育活動に取り組んでおります。

さて、震災から10年が経過し、ようやく立ち直りかけたところで、東日本台風や大雨被害、世界的規模の新型コロナウイルス感染症、さらに2月の福島県沖地震と容赦ない自然の猛威に天を仰ぎました。私たち大人でさえ、先が見えない混沌とした状況に呆然とする中、生徒たちはその困難さを理解・受容しつつ、未来を見据え、着実に歩んでいました。そこで令和3年度の学校経営方針を「生徒1人ひとりを丁寧に育む」とし、その歩みを確かな足取りとするため教育活動を展開して参りましたが、特に「RSTにより生徒に汎用的読解力を身につけさせる」ことに注力しました。

今年度は「AI時代を生き抜く読解力向上事業」の研究協力校として、RSTを活用して生徒の読解力を数値で把握し、RSの視点を取り入れた授業改善を行い、学力向上を目指してきました。生徒とともに教員全員もRSTを受検し、「教科書を正確に読むとはこんなに骨の折れることなのか。」と読解の困難さを全員で共有し、その上で本校を卒業するまでに中学校の教科書を正しく読むことのできる読解力を身に付けさせる「授業スキル」のあり方を探ってきました。県や市の教育委員会からの指導助言も頂きながら、実践を重ね、これまでの研究成果の一端を11月26日の授業公開にあわせ発表したところです。その間、生徒たちの屈託のない笑顔に癒やされ、目標に向かおうとする姿や部活動でのひたむきさに感動さえ覚えました。闇のようなコロナ禍ではありますが、一筋の光明が差し込み、明日に向かう活力が湧き上がっております。



(校長 松本 一宏)

令和3年度も終わりに近づいてきました。この「年度の変わり目」や「年の変わり目」というものは、昔から多忙を極める時期でもありますが、何となく非日常的な雰囲気があり、個人的には好きな時節のひとつでもあります。

例えば、年末、大晦日が近づくと、普段やったことのない場所の掃除をしたり、仕事上の課題やモヤモヤを整理したりしようとする気持ちになります。また、年度末には、実際に環境の変化が伴うこともあり、特に仕事面においては心を新たにできる時期と言えます。

人間以外の動植物にとっては、普通に時間が過ぎていく一瞬なのでしょうが、人間の世界では、心や行動をリフレッシュさせるための「区切り」として、大きな意味をもつものなのだなあと感じます。

この「区切り」について、最近、校長同士の雑談にもよく登場するのが、「定年退職」という「区切り」についてです。

ご承知のとおり、国家公務員法、地方公務員法の一部改正により、教職員の定年も年次計画で延長されることとなりました。私の年代にとっては、今年度退職であるため、直接関係ないように思えますが、退職後の生活にも影響してくることを想定し、今後の展開をしっかりと見据える必要があるように感じます。何よりも対象年度にかかる校長先生方は、「自分の体力は？授業は？異動は？延長後の退職後は？・・・」など、人生の「区切り」に関する具体的なビジョンが描けず、それこそモヤモヤした気持ちでいっぱいの子です。

私自身も若い頃は、定年退職という「区切り」をととても意義深いものと想像していました。また、その「区切り」が確たるものとして存在していたからこそ、そこに至るまでの気力や具体的ストーリーを生み出せたのではないかと考えていま

す。特に校長職に就いてからは、学校でいろいろな事案が発生しても、「もう少し、もう少し」と自分を奮い立たせる原動力となっていたような気がします。(私の周りでも、カウントダウンする校長先生方を今までたくさん見かけました・・・)

目の前に迫っている、定年退職という重要な「区切り」がぼやけ始めてしまった今年度、関係する校長先生方は、日常の仕事をする上でも、何となく漠然とした不安が居座り続けるような気持ちになっているのかもしれない。

さて、貴重な紙面をいただきながら、悲観的な話題ばかり綴ってしまいましたが、この「区切り」の大切さについて、終業式などの機会に、生徒に次のような話をすることがあります。

「～区切りを作って、心の整理整頓をしよう～」

これは、生徒諸君には失礼ながら、大部分が自分自身に言い聞かせている話です。大きな課題を分割して小さな課題にし、区切りを作って一つ一つ解決しようと自分自身に提案しているものです。そして、新しい年を迎える時のようなさっぱりとした気持ちで、次の課題に向かっていくことができたなら理想だなと考えています。

新型コロナの終息という見えない区切り、日々発生する学校の諸課題・・・現職として残された短い期間、これらの課題を漠然と抱えることなく、一区切り一区切り、自分なりに区切りを作って対応し、心の健康を保ちながら第二の人生に備えたいと思う今日この頃です。

ちなみに、課題山積の昨今、自分の一区切りは1日単位と短くなり、心の整理整頓は毎晩の晩酌時が日課となりました。体重、血圧、脂質ともに、おかげさまで順調に成長してしまいました。

# 随想

## 「区切り」



福島県中学校長会副会長  
原 真 児  
(郡山市立郡山第二中学校)

### (一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 ●大ホール・貸し会議室(教育関係者は半額)
- 福島市上浜町10-38 office@kyouikukaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208



福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから